



科研費種別

基盤研究C

研究課題

音楽科授業における熟練教師の実践知解明によるメンタリング・プログラムの開発

研究期間

2016-2018

研究目的

①音楽科授業における熟練教師の実践知の特徴を、新人教師のそれと比較することによって解明する。

②前述①により得られた示唆を基盤として、若手教師育成をみすえた音楽科授業におけるメンタリング・プログラムを提案する。(※現在進行中のため今回の報告では割愛)

研究方法

■思考抽出方法:再生刺激法(stimulated recall method)

■手続き:

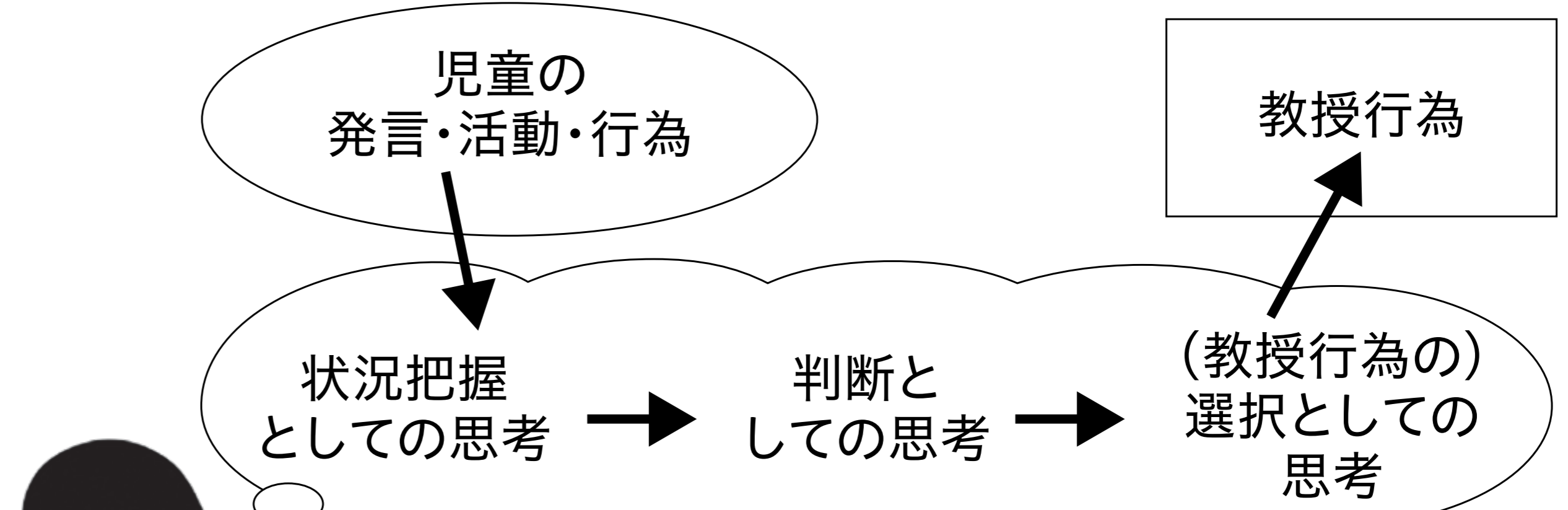
- ①授業の様子をビデオに収める。
授業者と学習者の相互作用の様子を撮影。
- ②授業後、可能な限り時間が経過しない早い時期に授業者に録画をみせる。
- ③教授行為が生じる度にビデオをストップモーションさせ、なぜそのような教授行為をとったのか問いかけ、授業者の思考を探る。



④問いかけに対する発話を記録し文章化する。

■分析視点

⇒“reflection in action” (D.Schön,1983).



■分析方法

- ①発話記録を1命題1単位としてカテゴリーで分類する数量的な検討。
- ②発話記録を読み込み解釈する質的な検討。(佐藤ら,1990)

■調査対象者:教師A:熟練教師、女性、教職経験33年
教師B:熟練教師、男性、教職経験28年
教師C:新人教師、女性、教職経験1年3ヶ月
教師D:新人教師、男性、教職経験3ヶ月

研究結果

■熟練教師と新人教師の実践知:8つの差異

[状況把握としての思考]

- 1)音楽に関する視点(degree of concerns on children's musical performance)
- 2)関心・意欲・態度に関する視点(degree of concerns on children's interest, motivation, and attitudes)
- 3)着眼点の多様性(variety of concerning points)
- 4)着眼点の具体性(concreteness of concerns)
- 5)着眼の対象者(characteristics of concerned individuals or groups)

[判断としての思考]

- 6)推論を伴った判断(judgment along with extrapolation)
- 7)見通しを持った判断(judgment with perspective)

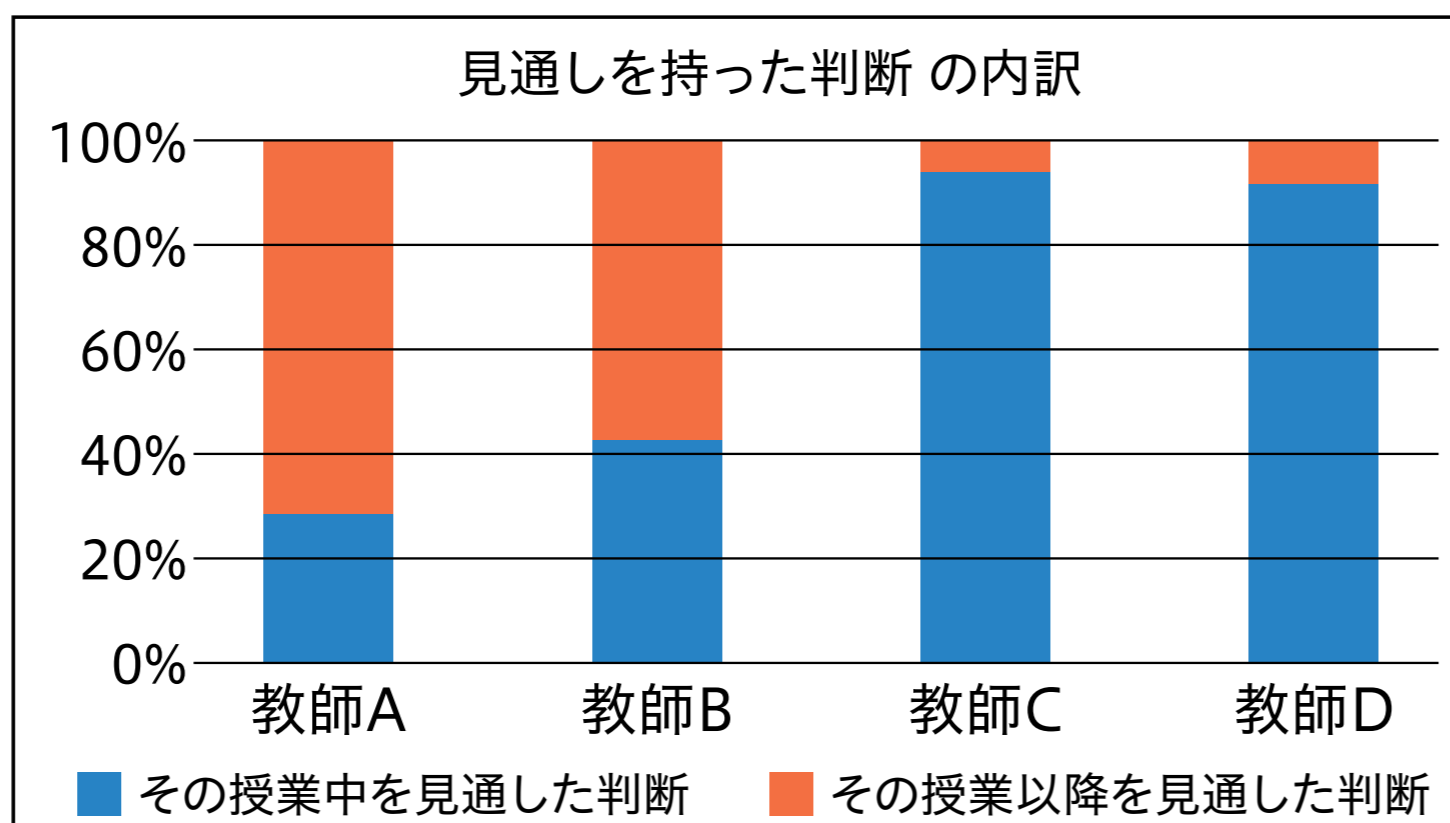
※7)の詳細

[熟練教師の例]

今は歌い出しのメロディーをピアノで弾いているが、後々には、最初の音をとただけで、歌に入れるようにしたい

[新人教師の例]

早く板書を終わらせて、子どもの演奏をみにいかなくてははいけない

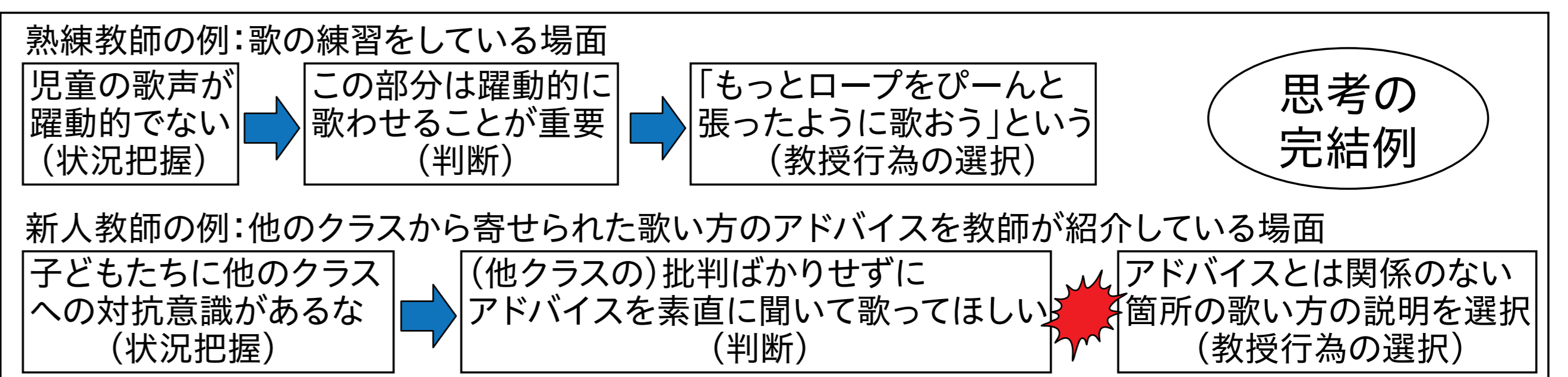


[(教授行為の)選択としての思考]

8)思考の完結(completion of thinking processes)

※8)の詳細

	①教師の働きかけ場面の総数	②状況把握としての思考が生じた場面	③判断としての思考が生じた場面	④状況把握、判断、に基づいて、(教授行為の)選択としての思考が生じた場面	⑤思考が完結した割合(④÷①)
教師A	140	133	133	133	95%
教師B	97	87	87	86	89%
教師C	61	37	33	28	46%
教師D	95	61	45	43	45%



結論

■本研究における熟練教師の実践知の特徴

- ・多元的な視点から具体的に状況を捉える熟考性。
- ・授業中の出来事に主体的に関与し、音楽科の教育内容に関する視点を基盤とした文脈化された思考。
- ・刻々と変化する児童の関心・意欲・態度に対して鋭敏。
- ・音楽的視点と人間関係的視点を優先した状況把握。
- ・具体的に焦点化された推論を伴う判断。
- ・長期的な見通しを備えた判断。
- ・「状況把握」「判断」「選択」の緊密性と一貫性。

刊行物



新しい小学校音楽科の授業をつくる
(ミネルヴァ書房)
高見仁志 編著
2018年3月

作曲業績



丹波市立青垣小学校校歌
/ 2015年11月初演
読売新聞より



専門分野

学校教育学(音楽)

科学研究費採択

科学研究費助成:基盤研究(C) 2010.4~2013.3
「音楽教育から展開する保幼小連携一歩と深化のプログラム」
共同研究者:無藤 隆・岡本 拓子・吉永 早苗

最近の業績

- ・高見仁志 編著『初等音楽科教育 - 保幼小の確かな連携をめざして-』/ミネルヴァ書房、2018年3月
- ・高見仁志 他「音楽に関する実践知研究の展望 - 『即時の知』と『信念・価値観としての知』に着目して-」/音楽学習研究(音楽学習学会)第13巻 2018年3月
- ・高見仁志 他「音楽に関する実践知研究 - 可能性と課題-」/宮崎大学教育学部紀要90号 2018年3月
- ・高見仁志 他「絵譜の源流をたどる - Grögerドイツ歌曲集“Liederfibel”の日本への受容-」/音楽学習研究(音楽学習学会)第13巻 2018年3月

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/teachers/detail/285/>

